

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区名	東淀川区
学校名	大阪市立井高野小学校
学校長名	二 井 敦 子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全生徒
- ・井高野小学校では、第6学年 56名

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語Aは、全国平均より8.3ポイント、大阪市平均より5.1ポイント低い。国語Bは、全国平均より12.2ポイント、大阪市平均より9.0ポイント低い。算数Aは、全国平均より4.4ポイント、大阪市平均より2.1ポイント低い。算数Bは、全国平均より8.0ポイント、大阪市平均より5.5ポイント低い。

今年度、国語Aは、全国平均正答率が昨年度に比べ、差が縮まったが、国語Bは差が広がった。算数に関しては、A・Bともに昨年度とほぼ同じと言える。

平均無解答率に関して、国語Aが6.7%で全国平均より1.4%高い。国語Bは5.2%、算数Aは2.3%、算数Bが7.8%で、この3つに関しては全国平均より0.4～0.6%高いところで収まっている。

(A問題：主として「知識」に関する問題 B問題：主として「活用」に関する問題)

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕教科の評価観点からみて、どの観点も全国平均に比べ低い、「話す・聞く能力」や「読む能力」においては全国平均との差は6～7%ぐらいに収まっている。しかし、「書く能力」は約9%の差がある。基本的な漢字の読み・書きや、文章に表れている内容をまとめたりする問題は、比較的できているものの、読解力や結果をもとにして内容をまとめたりする問題はあまりできていない。

今後の学習の課題として、「基本的事項の定着力を高める」ための工夫と、「文章を正しく読み取って、内容を深めたり、表現したりする力」を伸ばすために、「言語力や論理的思考の育成」に努める。

〔算数〕基本事項である「数学的な知識・理解」については、全国平均との差は少ない。ただ、「数量関係」に関する問題は苦手とする児童が多い。また、活用的な問題、たとえば、「小数の除法計算」「図形の証明」などの正答率が低い。いわば「数量や図形についての技能」を図る問題が弱い。

習熟度別少人数授業の継続が児童の学力面での下位層の改善につながった。今後は、ICTを活用した授業により、ひとりひとりの操作・体験活動を通じて「数学的な思考や説明する力の育成」を目指す。

質問紙調査より

テレビやテレビゲームに費やす時間が比較的多い。言い換えると、家庭での学習時間がやや少ないと言える。一方、「将来の夢や目標を持っている」児童が90%を超えるのは、従前に比べ増えており、望ましい傾向である。しかし、その反面、「自分にはよいところがある」と回答する児童が50%を割る状況があり、今後、子どもの自尊感情を高めるための学力・体力の向上が必要であると考ええる。

学校の特色として、「たてわり班活動」に取り組んでいる。その成果が徐々に表れ、行事を成功させることで「達成感」「成就感」を味わう子どもの割合が高くなってきた。また、昨年度から図書室の整備に力を入れたこともあり、「読書が好き」と回答する子どもが増えた。(75%) 図書活動の充実もあり、読書を通じての「言語力の育成」に成果が出ている。

「習熟度別少人数授業」においては、学校全体の体制を組んで、指導内容・方法の工夫と改善が必要である。

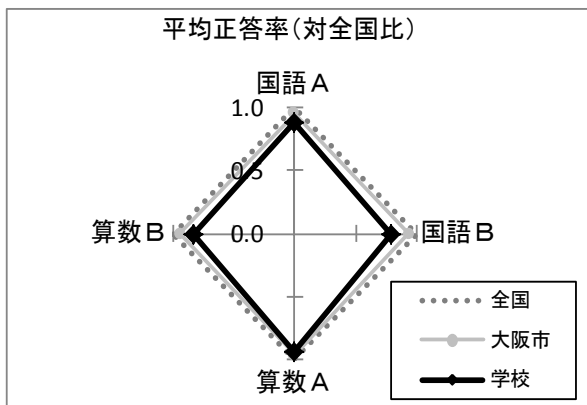
今後の取組

- 国語においては、「漢字の定着」「読み聞かせ」「音読指導」「表現活動」等の充実を図ることで、「読む」「聞く」「話す」「書く」力の育成を目指す。
- 図書活動の充実を図り、子どもの読書の推進と言語力の育成を目指す。
- 算数においては、ティームティーチング(T.T)や習熟度別少人数学習など、個に応じた指導の充実により、基礎・基本の定着を図る。さらに、発展的・活用的な学習に取り組ませることで、子どもの「言語力や論理的思考の育成」を図る。
- 従前の、放課後の「ステップアップ学習」に加え、今年度は区の事業を活用し、夏休み中に「自主学習会」を実施した。今後も、補充学習の推進と家庭学習のさらなる充実を図る。
- 各教科において、基礎・基本となる力を定着させるとともに、ICTの活用、体験活動、外部講師による授業、英語学習などを充実させることで、体験と思考を取り入れた「深い学習」を目指す。

【 全体の概要 】

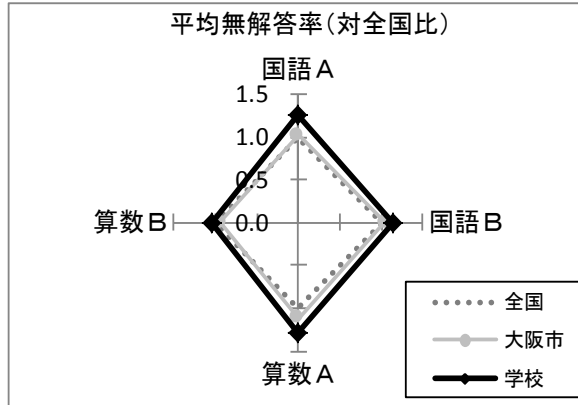
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	64.6	45.6	73.2	39.2
大阪市	69.7	54.6	75.3	44.7
全国	72.9	57.8	77.6	47.2



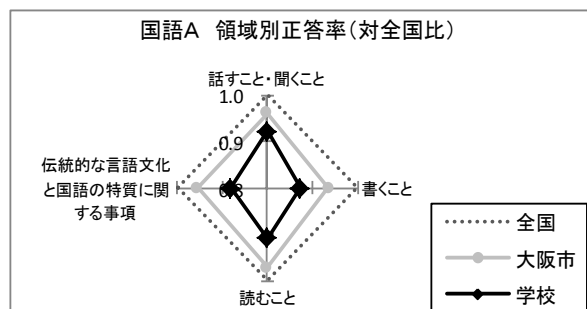
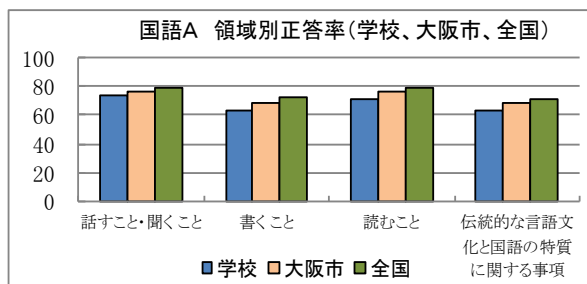
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	6.7	5.2	2.3	7.8
大阪市	5.4	4.8	2.0	7.0
全国	5.3	4.6	1.8	7.4

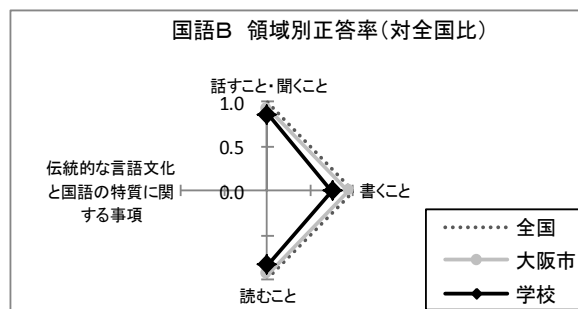
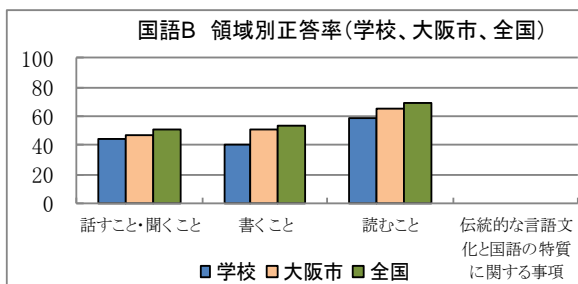


【 国 語 】

A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導 要領の 領域等	話すこと・聞くこと	1	73.1	76.1	79.2
	書くこと	2	63.5	68.1	72.8
	読むこと	2	71.2	76.2	78.5
	伝統的な言語文化 と国語の特質に 関する事項	10	62.7	68.0	71.1



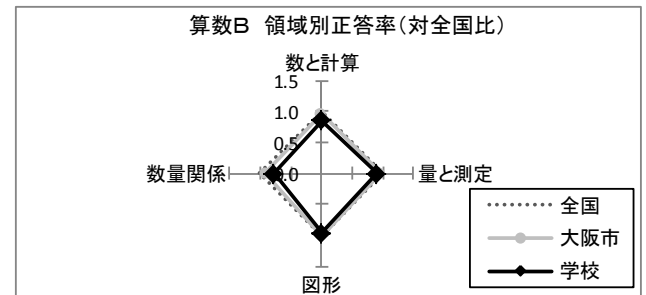
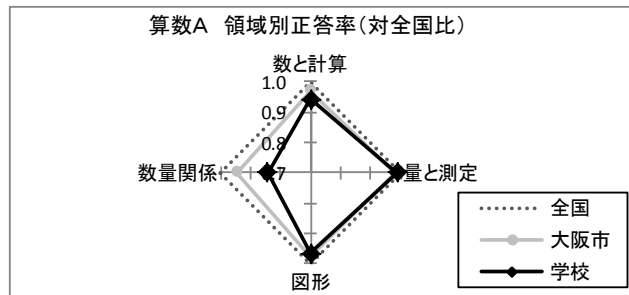
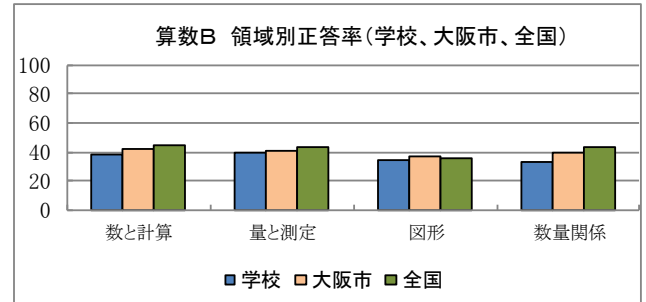
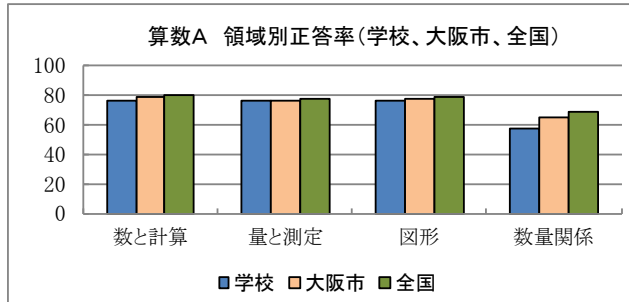
B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導 要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	44.2	47.3	51.1
	書くこと	6	40.7	50.7	53.4
	読むこと	3	58.3	65.6	69.3
	伝統的な言語文化 と国語の特質に 関する事項	—	—	—	—



【 算 数 】

A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	10	75.8	78.1	80.5
	量と測定	2	76.0	75.6	77.0
	図形	2	76.0	76.8	78.8
	数量関係	3	57.7	64.8	68.5

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	6	37.8	42.3	44.4
	量と測定	5	39.2	41.5	43.7
	図形	3	34.6	36.5	36.3
	数量関係	6	33.3	39.2	42.9



児童質問紙より

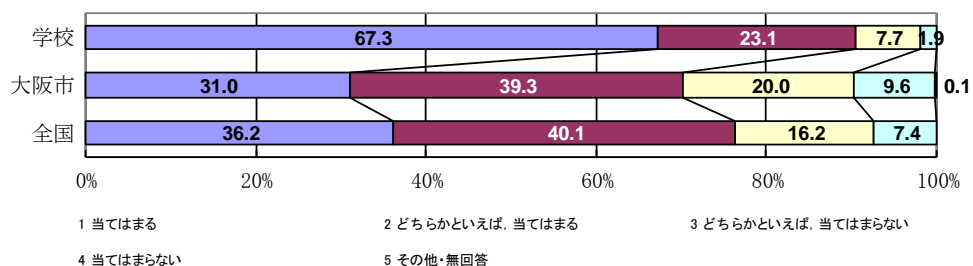
1 2 3 4 5 6 7 8 9

質問番号

質問事項

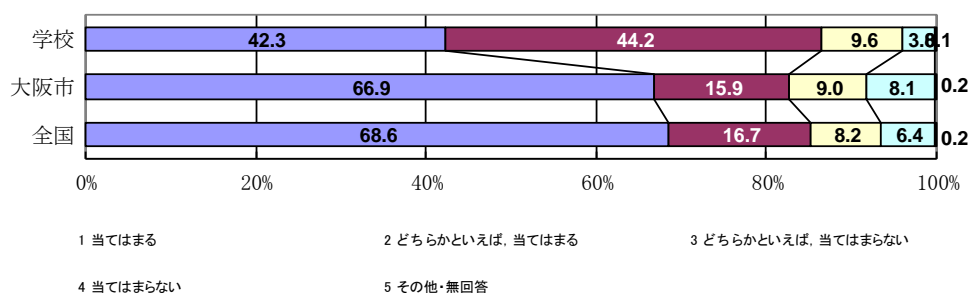
6

自分には、よいところがあると思いますか



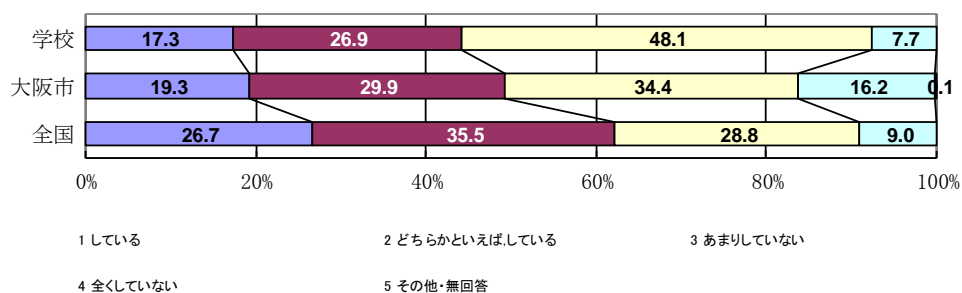
9

将来の夢や目標を持っていますか



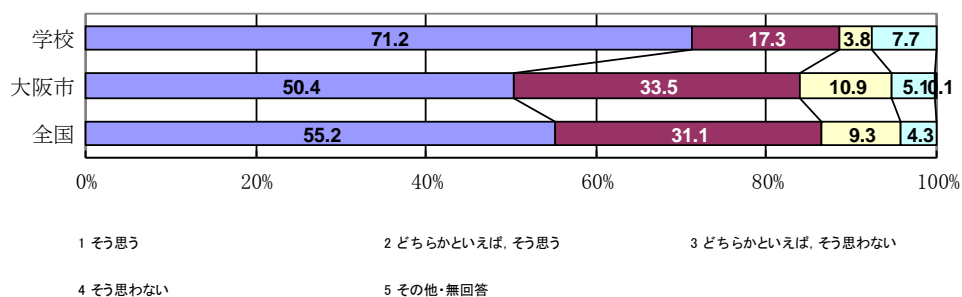
21

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



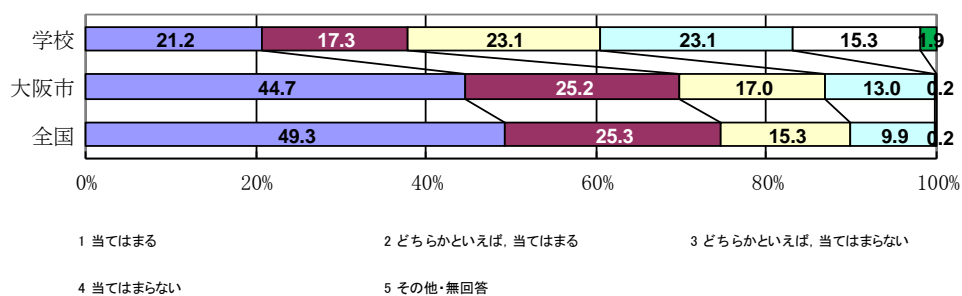
26

学校に行くのは楽しいと思いますか



64

読書は好きですか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

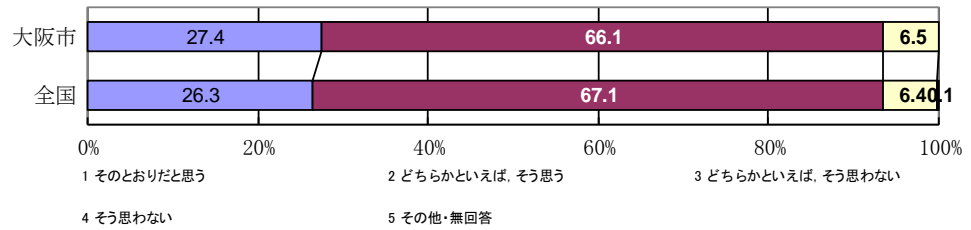
質問番号

質問事項

14

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか

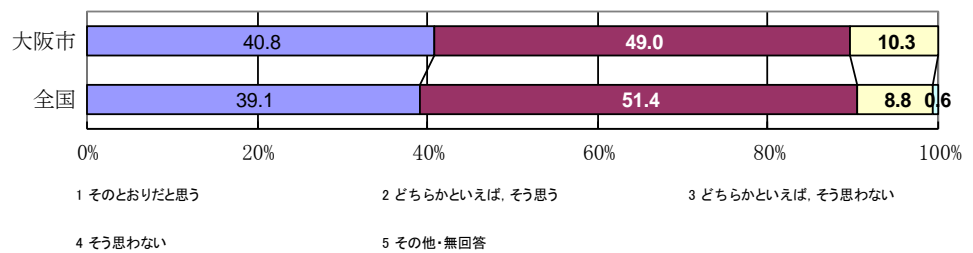
学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



15

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

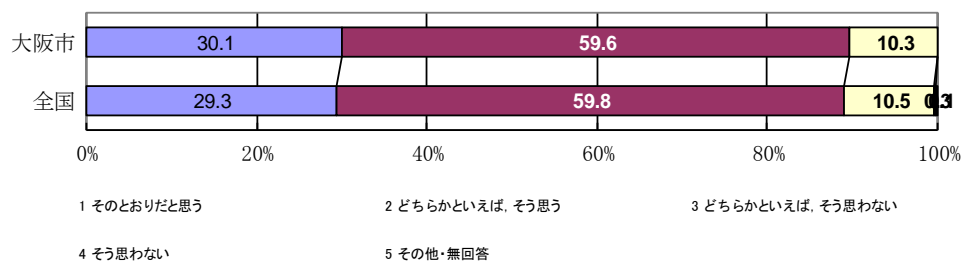
学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



16

調査対象学年の児童は、礼儀正しいと思いますか

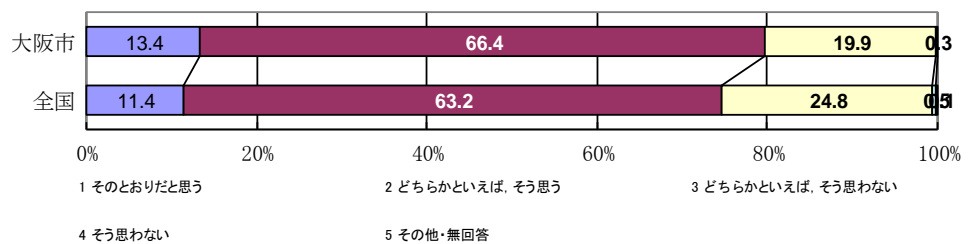
学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



17

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校「どちらかといえば、そう思う」を選択



25

調査対象学年の児童に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか

学校「週に2～3回行った」を選択

